

## 成果の説明書

(氏名) 水口剛

(学部) 経済学部

### 1 重要事項

#### (1) 投資家のサステナビリティ選好に関する研究

経済学部の佐藤(敦)准教授、阿部教授、宮田准教授との表記共同研究(主査:佐藤(敦)准教授)に新たに地域政策学部の田戸岡准教授にも加わって頂き、投資経験者3000人を対象に、サステナビリティ選好の有無や環境・社会問題に対する心理的態度などを調べるサーベイを実施した。

#### (2) S指標研究会

連合総研およびQUICK ESG研究所が共催する「S」指標研究会で引き続き座長を務め、ESG投資における「S」の指標のあり方について研究した。2022年5月に中間シンポジウムを開催して「日本版ディーセントワーク8指標(JD8)」(案)を公表し、その後、生命保険協会、グローバルコンパクト・ネットワーク・ジャパン、スチュワードシップ研究会メンバーとの意見交換会を実施した。2023年度に取りまとめる予定である。

#### (3) 金融庁サステナブルファイナンス有識者会議

金融庁が設置したサステナブルファイナンス有識者会議で引き続き座長を務め、2022年7月に『第二次報告書ー持続可能な新しい社会を切り拓く金融システムー』を公表した。その後、有識者会議の下に「インパクト投資に関する検討会」を設置し、副座長を務めた。

#### (4) インパクト投資勉強会

金融庁とGSG国内諮問委員会が共催で設置したインパクト投資勉強会において、引き続き座長を務めた。主要投資家、金融機関等から35名の委員が参加し、インパクト投資の国際的動向等について意見交換した。

#### (5) 環境省グリーンファイナンスに関する検討会

環境省が設置したグリーンファイナンスに関する検討会で引き続き座長を務め、2022年7月に『グリーンボンド及びサステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン/グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン』(2022年版)を公表した。

#### (6) 運用機関とNGOによる協働プロジェクト

昨年度に引き続きNGOの連合体であるCSRレビューフォーラムとある機関投資家(運用機関)との協働プロジェクトに取り組んだ。機関投資家がESG投資に取り組むにあたり、NGOの知見を活用する先進的な試みである。

#### (7) 執筆

- 巻頭言「新VUCA時代におけるESGの意義」、商事法務研究会『NBL』誌(2022年9月号)
- 「ESG投資の岐路」、交易財団法人資本市場研究会『月刊資本市場』2022年4月号
- 「サステナブルファイナンスの現在地」、野村資本市場研究所『野村サステナビリ

(8) 講演等

- エコイノベーションとエコビジネスに関する研究会（略称 SPEED）にて「ESG 投資の最前線」と題して講演した（2022年7月1日）。
- 税理士会全国統一研修会において「SDGs と ESG 投資の基礎知識」と題して講演した（2022年7月7日収録）。
- 北海道ビジネス EXPO にて「脱炭素とサステナブルファイナンスの潮流 ～ 北海道の可能性と期待」と題して講演した（2022年11月10日）。
- 日経 EGP オンライン記念ウェブセミナーにて「ESG 投資 新しい資本主義のかたち」と題して基調講演を行った（2022年12月2日）。
- 一般社団法人金融財政事情研究会主催の第13期「金融経営塾」において、「サステナブルファイナンスの展望」と題して講義を行った（2022年12月2日）。
- 群馬県主催の「湯けむりフォーラム」のグリーンイノベーション分科会でパネルディスカッションに登壇した（2022年12月17日）。
- 群馬県主催の「脱炭素ライフスタイルフェア」（ぐんま環境フェスティバル同時開催）に参加し、「市民、自治体、企業、金融がみんなで取り組む脱炭素」と題してトークセッションに登壇した（2023年2月19日）。
- 第二地方銀行協会社外役員セミナーにて「地域金融機関とサステナブルファイナンス」と題して講義を行った（2023年2月4日）。
- 生命保険文化センターにて「生命保険とサステナブルファイナンスの深い関係」と題して講演した（2023年2月16日）。
- 日経脱炭素委員会シンポジウムにて「ディスクロージャーと金融」と題したパネルディスカッションのモデレーターを担当。みずほ FG、大和証券、王子ホールディングスからの登壇者と討論した（2023年3月14日）
- 環境省主催の気候変動適応全国大会に招かれ「サステナブルファイナンスと気候変動適応」と題して基調講演を行った（2023年3月22日）。

2 その他の事項

学長2年目として、第3期中期計画の策定に取組み、無事、市長の認可を得た。また、大学教育質保証・評価センターの認証評価を受審し、適合の評価を得ることができた。昨年に続き、各界の識者を講師に招いた特別講義「世界と日本の未来を考える」を実施したことに加え、特別講義番外編として本学同窓生で、東京三扇会会長、ヤマト運輸社長の長尾裕氏をお迎えして講義をして頂いた。さらに特別講義地域産業応援編として、「脱炭素時代の地域産業を考える」と題した全4回の講義を実施した。

学長として教育研究審議会を主催するとともに、副理事長として理事会、経営審議会に出席した。また、公立大学協会の学長会議をはじめ、学長として対外的な会合に出席し、マスメディアの取材対応も行った。各地の後援会・同窓会の支部総会が再開し、参加して大学の現況説明を行った。

3 次年度以降の計画・抱負

2023年度は、第3期中期計画の初年度なので、学長としてその順調な実施を目指す。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行することから、大学運営においてもコロナ以前の状況への復帰を目指す。

研究面では引き続き個人投資家のサステナビリティ選好の調査に取り組む。また、S指標研究会で最終報告書を取りまとめる。